2019 年 11 月 24 日発行

大町山岳博物館友の会　第　181　号

ゆ き つ ば き 通 信

行事のご案内（友の会主催事業）

ゆ き ん こ の 観 察 会

遊ぶとき以外は負のイメージのある雪ですが、降雪、積雪ともさまざまな情報を秘めています。雪氷の専門である鈴木啓助山博館長に雪の秘密をワークショップの形式で教えていただきます。

《期　　日》　2020 年 1 月 25 日（土）　午後 1 時～午後 4 時
《場　　所》　大町山岳博物館・大町公園　（集合解散 大町山岳博物館）
※積雪状況により移動する場合が有ります（中山高原等）
《対　　象》　友の会会員　子ども～大人（2 時間程度の屋外活動あり　会員知人同伴可）
《募集人員》　20 名（定員になり次第締切）
《講　　師》　鈴木啓助大町山岳博物館館長
《参 加 費》　無料
《持 ち 物》　防水防寒具（含　手袋、靴下予備）　帽子　サングラス　筆記具
［可能ならば、ルーペ　雪スコップ　カンジキかスノーシュー］
《申し込み》　1 月 10 日（金）まで　電話・FAX または直接、友の会事務局へ
（Tel/Fax0261-23-6334）
《緊 急 時》　090-1217-9197（丸山）

年度当初予定にはありませんが、雪氷学の鈴木館長をお迎えしたことから、上記の企画を追加しました。先生の著書、「ゆきんこのたび ： ゆきにかかれたおはなし（鈴木啓助 作, さくらい史門 絵）」もぜひ読んでみてください。

これからの博物館事業等のご案内

博物館ＨＰ等で確認ください

山岳博物館　「常設展スペシャルガイド」

博物館スタッフにより、各専門分野をより深く掘り下げて、常設展示資料の解説が行われています。「家庭の日」を家族とともに博物館で楽しんでください。

□［済］令和元年 11 月 17 日（日）　〔担当者　宮野（自然）・関本（人文）〕
□令和元年 12 月 15 日（日）　〔担当者　矢野（自然）・関（人文）〕
□令和 2 年 1 月 19 日（日）　〔担当者　千葉（自然）・清水（人文）〕
□令和 2 年 2 月 16 日（日）　〔担当者　鈴木（自然）・栗林（自然）〕
□令和 2 年 3 月 15 日（日）　〔担当者　宮野（自然）・関本（人文）〕

大人・子供は問いませんが 5 名様以上の団体で申し込んでください。所要時間は 60 分程度です。希望の時間帯で先着順に受付を行います。希望者が重複した場合には、合同で開催されます。
申込み　ガイドを希望の方は、山岳博物館まで電話、FAX にて申し込みください。
参加費　会員でない方は、大町市民は無料、長野県民は「家庭の日」で団体割引料金、それ以外の方は、通常の観覧料が必要となります。

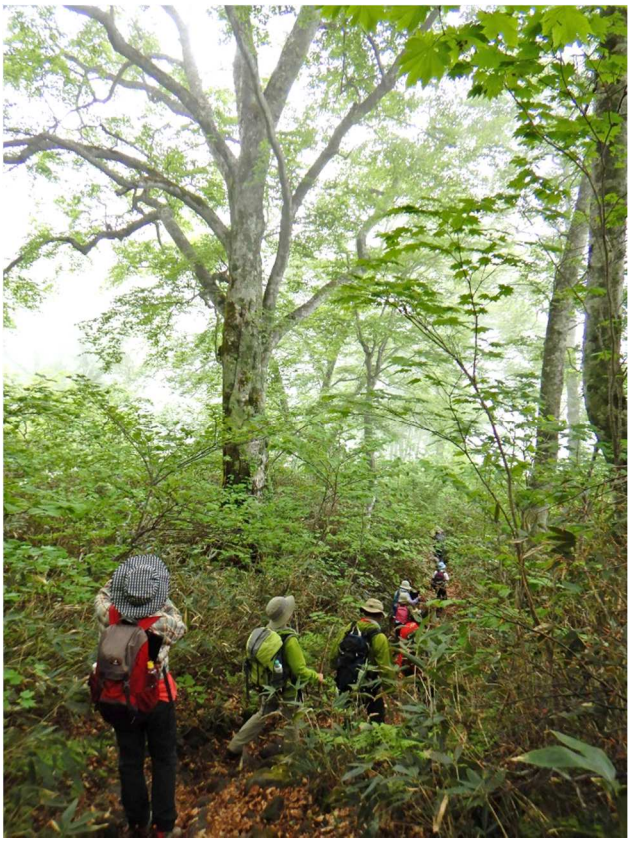
「大北地域タウンミーティング」に山博友の会が出店参加する！

11 月 6 日（水）午後 1 時から大町市平公民館で「大北地域タウンミーティング」が開催されました。主催者の（公財）長野県長寿社会開発センター大北支部から友の会に参加の要請があり、ブースの出店を宮澤会長、有川が担当して友の会活動をパネル展示、チラシ等で紹介しました。ライチョウの雄・雌、冬・夏毛の折り紙が解りやすいと好評でした。この日、21 団体が出展、大北シニア大学受講生 160 名が参加しました。参加者は、興味関心のあるブースを訪れ活動内容や取組みを聞き、今後の活動の参考にしていました。後半は、参加者と出店者でグループワークがあり、シニアの活動の場がどのようにしたらよりつくりやすいか、意見交換が行われました。　（有川記）

【投稿-行事参加感想文】

針の木雪渓自然観察会に参加して

松澤優子



薄曇りの風が心地いい朝。自然観察会に初めて参加させていただきました。

扇沢駅⇔大沢小屋を往復 6 時間かけ、実際に咲いている何十種類もの植物の名前やその特徴を教えていただきながらゆっくりと歩き、触り、嗅ぎ、学びました。先生はじめ参加されている皆様の知識の豊富さと「知りたい、覚えたい」という少女のような好奇心の真っすぐさに大変刺激を受けました。

また、野鳥の先生が同行され、時折鳴き声が聞こえてくると足を止めては「その声の主は誰なのか、どんな鳥なのか、どう歌っているのか」などを教えていただきました。鳥の鳴き方には５種類あると知ってからは、かわいい野鳥の声が聞こえると「ん？なんと歌ってるかな？」とみんなで立ち止まっては耳を澄まし双眼鏡で姿を探し・・・。歩くことをとことん楽しむ、とても素敵な会でした。

雪融け水が地から溢れる沢を渡ったり
濁流上のつり橋を渡ったり
残雪の斜面を歩き梯子を登ったり

転ばないように、ケガをしないようにと綺麗に平坦にされた安全な道を歩き慣れている私達が岩や木の根や凸凹アップダウンがあるままの当たり前の自然な道を歩かせてもらう登山。前に進むことだけでなく、そこにひっそり咲いて生きるたくさんの植物や野鳥たちの声に心を寄せて歩く。

人が山に魅せられる理由が少し見えた気がしました♪

【塩の道を歩く】「粟峠から鳥越峠周遊」

早川伸一

天気予報では降水確率が高く雨を覚悟していたが、まさかの秋晴れとなり気持ちの良いハイキング日和となった。

8:00 に小谷村役場に集合し、スタート地点となる県境の戸土集落に向け車で移動。車は信越県境を越え糸魚川市根知で右折し、山に向かい標高を上げながら進むと小谷村の戸土集落に到着。昔は分校もあったそうだが、現在は住んでいる人はいない。

塩の道公認ガイドの澤渡さんの先導で 9：10 にスタート。少し登った所にある境の宮諏訪神社で今日一日の安全を祈願。この神社は古くから諏訪大社と深く関りがあり、御柱祭の前年に御神木に薙鎌を打ち込む神事が行われているそうで、鳥の形をした薙鎌が打ち込まれた御神木を目の前で見ることができる。

神社を後にして戸倉山ふもとの白池に向かう。白池はその水利権をめぐり、元禄時代に信越の国境に関する争いのあった地で、現在も地図に県境が明記されていないとのこと。この日は白い雲が浮かぶ青空の下、湖面に樹々が映り込み、その奥に雨飾山がそびえる美しい池であった。

白池から粟峠に向けて、ところどころ色づき始めた森の中をゆっくりと登る。樹々に囲まれた粟峠の頂上でゆっくりと昼食をとる。

昼食後は殿行の一本杉までブナ林の中を一気に下り、横川方面との分岐点を鳥越峠に向けて狭い道を進む。小さな石仏に見守られながら標高 750m の鳥越峠に 13：10 に到着。後は出発地の戸土に向けて下るだけだ。秋の花々を見ながらゆっくりと歩き 14：00 に戸土に到着した。

今回、信越国境の塩の道を歩き、雪深い山の中を多くの人や牛が往来し、戸土、白池、殿行などの集落では人々が根を張って生活していたという事に想いを馳せる事ができた。澤渡さんには要所要所で分かりやすく解説していただき理解が深まった。

どうもありがとうございました。

【報告】［共催事業］

特別講演会　「建築からみた北アルプスの山小屋」

《期　日》　7 月 28 日（日）　午後 1 時 30 分　～　3 時 30 分
《場　所》　山岳博物館　講堂
《参加者》　34 名

9 月 28 日まで実施された企画展「北アルプスの山小屋」では現地見学会が行われたほか、7 月 28 日（日）には信州大学工学部建築学科准教授、梅干野成央（ほやのしげお）先生による特別講演会が行われました。また、ミュージアムトークが 8 月 18 日、9 月 15 日にそれぞれ行われました。

講演では、梅干野先生が山小屋の研究に入るきっかけから話され、日本山岳建築史学としてテーマ設定されているということです。

山小屋は、歴史をたどると、杣小屋のような生業のため、信仰のためのものから始まりました。近代には北アルプスを中心に、大正から昭和初期の登山ブームに乗って発達しました。戦後にも再びブームが訪れ、昭和 40 年代から 50 年代に建物規模の拡大が盛んに行われました。

山小屋の初期の形に岩小屋があり、石室も背後に大岩があるなど、その名残を引きずっていることや、木造の時代（歩荷の時代）から近代的な建築へと変化したこと、吉阪隆正氏が建てた涸沢ヒュッテの維持など、そのデザインについてなどお話されました。

山小屋はなんとなく作られたものではなく、山の風景に調和し山の環境の中での必要性と必然性を持った文化財であることが話されました。

（編集担当記）

【報告】［共催事業］

北アルプスの山小屋現地見学登山　「上高地徳本峠小屋ほか現地見学会」

《期日》2019 年 8 月 31 日(土)～9 月 1 日(日)
《場所》島々谷～徳本峠～上高地周辺
《参加者》　21 名（講師 1 名、学生 2 名、博物館職員 3 名、一般参加者 5 名、友の会会員 10 名）

8 月 31 日

上高地に入る自動車道のなかった時代、樵、炭焼き、そして薬草、山菜を採るなど生活のために人々は島々谷に入った。岩魚留小屋、徳本峠小屋もそういう人々が泊るための小屋として作られたとのこと。また北アルプスへの登山のため谷を上り峠を越え、槍ヶ岳、穂高岳などに登ったという。今、上高地へは電車、バス、タクシーで手軽に入ることができるがかつてはこの道を辿らなければ上高地の美しい自然も、穂高岳の雄大な眺めも目にすることができなかった。

今回の企画は二日かけて、島々谷を歩き、徳本峠小屋で泊り、歴史、文化、建築にふれる体験登山だ。

いよいよ出発の日、さんざん気をもんだ天候もおあつらえ向きの登山日和。8 時 30 分、安曇支所出発。二俣までは車も通れる林道を二時間。爽やかな青空も広がり、木々の緑も美しく、山野草も見られる。途中イノシシの死骸にあったり、先日の遭難者捜索のヘリが飛んできたり、今回の参加者は女性が多くお喋りに花が咲く。二俣、休憩、トイレ。

11 時、二俣からいよいよ歴史の道、多くの登山家、文人、ウエストンも辿った道。島々川に沿った良く整備されたなだらかな登り。時々足元注意の小さな沢を渡る。瑞々しい緑のコケに歓声が上がる。炭焼き小屋の跡、石碑などにかつての人々生活がしのばれる。そろそろお腹も空いてきて途中ベンチのあるお休みどころで昼食。

岩魚留を目指す。少しアップダウンも出てきた。橋を渡り到着、休憩。以前この道を辿ったときは小屋のスタッフが客を迎えたり、布団を干したりしていたが、現在は営業していない。小屋についての解説、小屋の横の桂の木は樹

齢数百年の大木という。

14 時、徳本を目指す。数回渡渉をする。清らかだが激しい流れ、無事通過。やがて川と離れ高度を稼いでいく。そばな、千手がんぴ、多摩川ホトトギス、からまつ草、せんのう等の山野草が見られる。せんのうの朱色が鮮やか。いよいよ九十九折の登りが始まり息が上がる。頑張れ！頑張れ！途中冷たくて美味しい力水、最後の一登り、先頭から歓声が上がり小屋に到着、17 時 55 分。もう少し早い時間に着いていれば、穂高や明神岳が迎えてくれただろう・・・

小屋泊組、テント泊組それぞれ落ち着き夕食。新しく増築された小屋は古い木も利用されているが贅沢に(？)木が使われ、スペースもゆったりしている。20 時消灯。

9 月 1 日

4 時 30 分起床、朝食前に展望台に行く。岩の殿堂圧巻の奥穂高、前穂高、前穂の一部のように連なる明神岳も負けずに堂々と聳えている。5 時 30 分朝食。6 時 30 分より梅干野先生の解説。

7 時、下山開始。途中ガレ場の小さな沢を渡ったりしながら高度を下げていく。やがてなだらかな道になり、上高地への道に続く。旧上高地孵化場見学、明神嘉門次小屋を見学し昼食。名物の岩魚を食べる人、蕎麦の人、勿論ビールも有り。上高地河童橋に向かう。1 時間程散策。美味しいソフトクリームで下界を味わった。山も勿論素晴らしいが、下界も良いね！

天候にも恵まれあこがれの島々谷、徳本峠、多くのアルピニストや高村光太郎智恵子、芥川龍之介等の文人も越えた道を辿ることができた。山岳博物館の職員の方々、梅干野先生、学生の皆さんありがとうございました。

（担当役員
宮田京子）

《現地見学会の内容》　講師の梅干野准教授の説明から主な内容を抜粋

［安曇支所～島々谷～徳本峠～上高地］

江戸時代後期、安政 2 年（1855）に開道している。松本藩の上高地での木材伐り出しのために杣人が往来していたが、明治維新によって事業が廃止された。その後、ウィリアム・ガラウンドが明治 11 年（1878）、その後ウォルター・ウエストンが槍ヶ岳、前穂高岳登山のために通過している。今日まで主に登山道として利用されてきた。岩魚留小屋手前までトロッコが引かれ木材等の運搬がされていた記録がある。

［岩魚留小屋 1260m］

個人所有、6 年程前に営業をやめている（9 月 9 日、市民タイムス記事より）。木造平屋建 60 平方メートル。岩魚留官舎の原形が残るのは一間（梁行 2 間×桁行 3 間）の建物で、炉が配されていた。明治 44 年（1911）にかつての民間会社・上高地温泉が登山道の中間点に開設した。建物は当時の農商務省の岩魚留官舎が移築、転用された。徳本峠小屋とともに山小屋の原形ともいえる姿を残している。小屋は板葺きで風で飛ばないように石や丸太で押さえている。小屋の中は、玄関を入ると広間に囲炉裏がある。広間の北が台所、西が布団部屋になっている。縁側が軒下に張り出し、荷物を置いて休息ができる。ウエストンが大正元年（1912）、大正 2 年（1913）の槍ヶ岳登山の時に利用したと記録がある。小屋の前の沢に段差があり、岩魚が留まっていることから岩魚留小屋と呼ばれている。日本近代登山史を物語る歴史的価値の高い建物である。

［徳本峠小屋 2135m・国登録有形文化財］

平成 23 年（2011）に国登録有形文化財に登録された。徳本峠小屋は大正 12 年（1913）山小屋として開設した。上高地温泉ホテルの前身である‘清水屋’の看板が掲げられていた。最大 200 名が宿泊されている。木造平屋建（桁行 3 間×梁行 2.5 間）板葺屋根で、玄関に入ると上がり框があり、当時の姿は、ござ敷きの一間の空間に炉が配されていた。時代を経て、宿泊客が増えるとともに、段階的に増築され、昭和に入り、2 階の宿泊スペースが増築、昭和 27～42 年（1952～1967）の間に売店が増築された。昭和 50 年（1975）には更に増築された現在の姿になったと考えられる。板壁、梁に登山者の書いた文字が残っている。材は、現地調達したと思われる木材が使われてい

る。平成 27 年（2015）に当時の姿を残す国登録有形文化財の部分を残し増築されていった東側を新築した。

［旧上高地孵化場･国登録有形文化財］

上高地孵化場は大正 14 年(1925)から建設され、イワナの孵化放流、ヒメマス等の移植放流が行われた。水温が低いために魚の孵化放流に適していなかった。飼育池と物置の 2 件が国登録有形文化財に登録されている。飼育池は、梓川上流、明神橋の東側に所在し、飼育池は 4 基と取水路・排水路からなっている。排水路は石積みが現存し、当時の姿をとどめている。物置は、飼育池の南東にあり木造平屋建（桁行 5.5m×梁行 3.6m）切妻造鉄板葺で、屋根に煙出しを設けている。入口付近が土間で中央には囲炉裏が設けられており、その周囲には畳が敷かれている。物置は当時の姿をよくとどめており、素朴な建物は、美しい景観をつくっている。現在は、信州大学山岳総合研究所上高地ステーション別館・観察池となり、活用されている。

［嘉門次小屋囲炉裏の間・国登録有形文化財］

嘉門次小屋の由来である上条嘉門次（現松本市安曇）は、近世より杣職見習いとして上高地に入っていた。明治元年（1864）16 歳の時に松本藩の藩有林見廻り役となり、明治に入り国有林になってからも農商務省山林局の山林取締りの手伝いをしながらカモシカ猟や岩魚釣りをしていた。明神池湖畔に明治 13 年（1880）、間口 9 尺、奥行き 2 間の仮小屋を建てた。嘉門次は明治 25 年（1892）、大正 2 年（1913）にウエストンの槍ヶ岳山行の案内人を務めた。平成 23 年（2011）に国登録有形文化財となった。囲炉裏の間は、大正 8～11 年（1919～1922）に仮小屋が建て替えられたものである。現在も囲炉裏で岩魚を焼き客を迎えている。昭和 34 年（1959）に小屋の前に嘉門次のレリーフをはめ込んだ石碑が建てられた。

［ビジターセンター］

上高地の自然を解説・展示している。山岳写真家のパネルは見応えがある。上高地の土産、記念の品などが買い求められる。

現在の上高地は登山基地、観光地となっているが、かつては、林業、漁業、農業(牧場）などが行われていた。

（関本学芸員、有川記）

《行動記録》
8 月 31 日（土）晴
安曇支所・出発式・登山開始 8：30―島々谷遡行―二俣（トイレ）11：00―昼食 12：30―岩魚留小屋見学会 14：00―徳本峠小屋 18：00
9 月 1 日（日）晴
朝食 5：30・旧徳本小屋（国有形文化財登録）見学会 7：00―明神 9：00―旧上高地孵化場現地見学会―明神・嘉門次小屋見学会、昼食 12：00―ビジターセンター見学―河童橋周辺散策―上高地バスターミナル発 14：20 分＝安曇支所・解散式 15：00

【報告】［友の会主催事業］

塩の道を歩く「粟峠～鳥越峠周遊コース」

《期日》2019 年 9 月 29 日（日）　《場所》糸魚川市・小谷村　《参加者》　18 名

今年も去年の「塩の道 地蔵峠、大網峠越え」に続き、「小谷村公認塩の道ガイド」の澤渡さんに「塩の道 粟峠～鳥越峠越え周遊コース」をガイドしていただきました。

当初の予定では長者平に車を止めて横川から粟峠を経由して鳥越峠に行き、鳥越峠からまた長者平に戻るコースを予定していましたが、天候が不安定だったため、戸土まで車で行って戸土から粟峠を経由して鳥越峠に行き、鳥越峠から戸土に戻るコースに変更しました。

9:11 スタート～9:21 境の宮諏訪神社～10:03 白池(休憩)10:25～11:30 粟峠(昼食)12:12 粟峠～13:10 鳥越峠～13:50 戸土～14:00 駐車場

境の宮諏訪神社では諏訪の御柱祭の前の年に行わ

角間の分去れ

れる薙鎌打ちの神事で神木に薙鎌が打ち込まれている様子を見学しました。境の宮では 7 本、小倉明神には 6 本の薙鎌が打ち込まれているそうです。

白池では文政 7 年に戸倉山の大雪崩で 21 名が犠牲になりその内 11 名が小谷の歩荷だったというお話も澤渡さんから教えていただきました。

「角間の分去れ」には「右松本街道大網　左中谷道横川」と刻まれた道標があり、糸魚川の羅漢和尚が作ったと言われていることも教えていただきました。

昔は塩の道はどこでも幅 1.5 間はあり、牛 2 頭が荷物をつけたまま行き違いができたそうです。またケヤキの大木から 4 尺角の柱を切り出し東本願寺まで運んだそうです。大きなソリで雪道を引いたそうでそのソリが山口の博物館に展示されているそうです。

小谷村公認の塩の道ガイドの澤渡さんからはいろいろな事を教わりました。ブナは緑のダムと言われ 1 本の木で 1 反歩の田んぼをまかなえる事、最近あけびの実が少ないのはマルハナバチや蝶々の減少の影響があるのではないかなど興味深い話をしていただきました。

天気も心配していましたが、歩いている間は雨に遭うことはなく車に乗って帰る途中に降り出しました。澤渡さん、本当にありがとうございました。

（担当：川﨑祐子）

大町山岳博物館友の会　サークル研修報告（その２）

白山高山植物園 ～ ふれあい昆虫館

前号に引き続き、皆さんにいただいた報告から抜粋で感想等をまとめます。

白山高山植物園

園内には建物も一切なく本当の自然のなかに居るようであった。大型バスが４台来ていて、高山植物の魅力の高いことが感じられた。　（ＴＮ）

白馬鑓ヶ岳の下の大出原を思い出した。山博に関係する多くの方がこの植物園に視察に行って頂きたいと思う。　（MW）

何がこんなにたくさんの人々を引き付けているのだろうか、リピーターが多いのだということであったが、羨ましく思うだけではだめだ。育苗、移植を待つ苗がある施設も見学した。芽生えが思いがけない姿だったり、芽生えのしやすいものや気難しい種類があったりする。　（KM）

白山高山植物園では植えられた植物が生長して込み合うことで、目的としない植物の侵入が抑えられ、草原性の植物群落が安定的に維持されている。　（MN）

植物の数、その植栽の仕方、見学者への配慮から白山の生物多様性を守っている人々の熱い思いは十分伝わる。手軽により多くの人々が楽しむことができるのは植物園の役割を果たすことに貢献している。活動を支えるサポーター会員、スポンサー会員制度もいいなと思う。遠くに住んでいても植物園の活動を応援したい人は大勢いると思う。　（ＳＴ）

お金を出し合い、有志でこういった幾多の場所で、また、数年かけて真剣に研究を重ねてきた人たちの意見も重視されるべきではないだろうか。　（ＫＩ）

石川県ふれあい昆虫館

幅広い展示だと感じた。楽しむための気遣いがあったように感じた。　（KM）

擬態する昆虫が食べられないように自分の力でしっかり隠れていることがすごい　（HN）

楽しそうな入館者の表情が新鮮。何回も行きたくなる仕掛けがいっぱいある。来館者の立場に立っての様々の工夫、スタッフのご苦労は並大抵のことではないと思う　（ＳＴ）

全体的に（山博への提言）

北アルプス地域の高山植物、希少種、絶滅危惧種を保存する取り組みを充実させられたらと思う。（ＴＮ）

付属園構想に私たちが感じた意見や考えを活かしていただけたらと期待する。　（ＫＭ）

子ども達をターゲットにした体験型の企画や展示、山岳総合センターとタイアップした登山講習や登山情報提供が望まれる。　（ＳＴ）

多くの人がアイデアを持ち、発想し意見を交わすことができた。みんなで力を合わせて、世界に誇れる山博にしたいと夢を抱くことができた。　（ＫＩ）

長野県山岳総合センターが創立 50 周年を迎えました

長野県山岳総合センターが創立 50 周年を迎え、これを記念した記念式典と記念講演会が 11 月 9 日（土）に行われました。

記念講演 1　山本 正嘉 氏（鹿屋体育大学 教授）
「登山者の過去・現在・未来～都市化した心身を自然の中でどう扱うのか～」
記念講演 2　原山 智 氏（信州大学名誉教授）
「北アルプスの過去・現在・未来～山岳の誕生から消滅まで～」

第二弾が 3 月 20 日(金・祝　18 時頃より)に計画されています。
佐々木大輔 氏（国際山岳ガイド・スキーヤー）
「山岳スキーの可能性 ～スキーを通して経験してきたこと・これからの夢～」
詳細は　https://www.sangakusogocenter.com/

烏帽子の会

活 動 報 告　鷹狩山（1,167M）・霊松寺山（1,129M）登山

《月日》11 月 2 日（土）　《天気》晴

《参加者》13 名

紅葉の登山道をゆく

《コース状況：その他周辺情報》

皆さんと慣れ親しんだ登山道を和気あいあいと進み、快晴に迎えられた中、紅葉の素晴らしさに記念撮影、皆ニッコリ北アルプスも美しい姿を現し良い一日でありました。

《感想》

鷹狩山から霊松寺山の三角点そして霊松寺山から霊松寺・山博とみなさん大変疲れたと思いますが、シンセサイザーを楽しんだ事と霊松寺の中は、ボランティアの方に詳しく説明いただき、みなさんも堪能した事と思います。

越山頼子

《コースタイム》

8：30 山博集合 → 8：40 鷹狩山向け出発 → 10：05 鷹狩山山頂到着 →10：30 霊松寺山に向け出発 → 11：15 霊松寺山三角点 → 12：20 霊松寺着 昼食休憩 → 13：00 霊松寺本堂内案内していただく → 14：00 霊松寺出発 → 15：00 山博到着・解散

※今回も大月さんの 75 歳のお祝いをしました。今年は 3 名の方が 75 歳を迎え全員のお祝いが出来、改めて会員皆さんが元気に参加できることを嬉しく思います。

（烏帽子の会事務局）

綺麗な紅葉の前で

霊松寺山三角点

75 歳のお祝い

霊松寺本堂

烏帽子の会では 7 月例会に蝶ケ岳､9 月例会に御嶽山の登山を予定していましたが、あいにくの天気のためいずれも中止となりました。

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

ボランティアサークル

雪の便りを聞いて、今シーズンの屋外作業はほぼ終了しました。これからは発行物の発送など、屋内での作業が中心になります。また、常設展スペシャルガイド等にも参加して、研修もしていきたいと思います。

9 月 28 日には山博周辺で山岳フェスティバルが行われ､終日無料開放となった山岳博物館で折り紙コーナーやスタンプラリーなどのお手伝いをしました。

来年 3 月 8 日にはライチョウ基金シンポジウムが大町で予定されていますのでお手伝いを予定しています。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

スポットガイドツアー

ゆきつばき通信編集室より

通信 181 号をお届けします。夏の行事など、報告が多くなっています。行事参加者から感想もいただきました。行事のご案内ですが、年間計画にはありませんでしたが冬季の事業がないことから、急きょ雪の観察を入れました。

大町市の広報 10 月号に山博でのライチョウ飼育の様子が掲載されました。大町市の web サイトからも見ることができます。平成 29 年度の 3 月号にも博物館の特集があります。

また安全神話だったのでしょうか。異常気象なのか、人の経験の期間が短かったのか。100 年以上の観測期間をもつ測候所等のデータでは、この秋が必ずしも今まで経験したことのなかった現象ではないことを示しています。確かに、100 年で気温は上がっていますし（松本で 2℃も）、降水量は 1 割近く減っています。一方で、人の生活がそれ以上に変化しています。ぜひご自身の生活の場の安全と危険を、安全バイアスをかけずに、確認しておいてください。長野県内での被災が多かっただけに、会員の中で被災された方がおられましたら、心よりお見舞い申し上げます。直接、間接のご不便を強いられた皆様、向寒の折ご自愛ください。

（丸山卓哉）

山博ページ　http://www.omachi-sanpaku.com/

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

会費のご案内

会費振替口座番号　00550－2－24194　加入者名　山博友の会

ファミリー 4,000 円　　個人 3,500 円　　学生 2,000 円

※ファミリー会員とは、同居または扶養家族をさします。学生会員とは、小学生～大学生までをさします。
４月が年度切り替えとなっています。中途入会の場合は年度当初にさかのぼって出版物等を配布します。
賛助会員につきましてはお問い合わせください。

ゆきつばき通信　第 181 号

発行／大町山岳博物館友の会　　2019 年 11 月 24 日

〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334